

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3771400458		
法人名	悠悠有限会社		
事業所名	グループホーム悠悠せんねん村		
所在地	香川県高松市香南町西庄695番地1		
自己評価作成日	令和 7 年 5 月 1 日	評価結果市町受理日	令和7年11月21日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社アストリーム・アライアンス		
所在地	香川県さぬき市津田町鶴羽2360番地111		
訪問調査日	令和7年7月23日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

広い庭園があり、四季折々の花が楽しめる。春には桜がみごとに咲き、庭園でお花見を楽しむ事ができる。八朔やきんかん、さくらんぼ等の果実も採れ、気候の良い日は、散歩に出掛け、気分転換を図っている。施設横には昨年に、畑を開拓し、季節の野菜や果物、花を育て、入居者様と一緒に収穫をしている。リビングに面するウッドデッキでは、昼食を摂ったり、バーベキュー、ティータイムを楽しむこともできる。

入居者様に出来ることは行ってもらえるよう、毎日の生活の中で食事作りや洗濯たたみ、モップがけなど、生活リハビリを中心に、本人の無理のない範囲内で自立支援に取り組んでいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点】

田んぼが点在するのどかな丘陵地に系列の事業所が複数点在している。事業所は木造の平屋建て、周囲には木々や花壇があり遊歩道が整備され、身近に季節を感じることが出来る環境にある。利用者は恵まれた環境の中、ウッドデッキやリビングで食事やティータイムを楽しめている。小規模の良さを活かして職員と一緒に食事の準備や野菜作り、草取りなど自宅で過ごすような時間の中で、個人の身体状況に合わせた、生活リハビリが行われている。職員は自分の得意とする分野に能力を発揮して生き生きと働かれており、法人理念の「笑顔あふれる空間づくり」を目標に、利用者のための事業所づくりが実践されている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいの <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいの <input type="radio"/> 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができる (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と <input type="radio"/> 2. 家族の2/3くらいと <input type="radio"/> 3. 家族の1/3くらいと <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にやつたりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3. たまにある <input type="radio"/> 4. ほとんどない	64 グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度 <input type="radio"/> 3. たまに <input type="radio"/> 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている <input type="radio"/> 2. 少しずつ増えている <input type="radio"/> 3. あまり増えていない <input type="radio"/> 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> 2. 職員の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 職員の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> 2. 家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己 外 部	項 目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営				
1 (1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝、朝礼時に法人理念・事業所理念を職員全員で唱和している。管理者、職員は理念を共有し、認知症高齢者との関わりを大切にしている	法人理念に基づき、具体的な事業所理念が掲げられている。理念は玄関内に掲示して朝礼時に全員で唱和されており、常に「笑顔あふれる空間づくり」が目標とされている	
2 (2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の一斉清掃(草抜き、不燃ごみ集め等)に参加している。年に一度歴史民俗郷土館で展覧会が開催され入居者様が制作した作品を展示させて頂いている	地域の情報を基に参加できるイベントに積極的に参加がなされている。清掃や美化活動、文化的なイベントには利用者も参加され、利用者の外出意欲や作品の制作意欲につなげられている	
3	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方からの見学希望があれば受け入れておらず、GHでの暮らしやどのようなものかを知って頂き、また、認知症高齢者のお世話をされている家族様の相談にものっている		
4 (3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヵ月に1回開催している。季節ごとに季刊誌を配布し日々の暮らし様子を見ていただき、解りやすいように説明している。家族の立場からの意見や感想、また、地域の方々から支援についてのアドバイスも頂き、評価への取り組みに活かしている	運営推進会議は地元の有志がバランス良く配置されている。事業所は事故やヒヤリハットに類する事案等も公表して、参加者の意見も引き出されている。また、利用者のイベント参加写真や機関誌を活用するなど分かりやすく説明されている。更に会議を通じて、地域の災害に備えた協力関係なども話し合われている	
5 (4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括支援センターへは、季刊誌をお渡しし、ホーム内の近況報告(行事等)をしている。ホームに空きがある際は連絡し、対象者がいれば紹介して頂いている。また運営推進会議を開催する上で、助言を頂いている	市の職員の運営推進会議への参加や、地域包括支援センターに担当者が直接訪問して情報交換がなされており、事業所の現状理解や相談事にも理解が得られている	
6 (5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	現在、身体拘束は行っていない。会社全体の勉強会で身体拘束について取り上げ、理解を深めている。3ヶ月に1回『身体的拘束適正化検討対策委員会』を開催し職員全員で話し合っている	年間の研修計画に沿って、定期的に勉強会が開催されている。また、3ヶ月に1回は身体拘束適正化検討委員会を開催され、適正な運営に努められている	
7	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内の虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	虐待防止委員会を3ヶ月ごとに行っている。それをもとにミーティング時に話し合いの場を持ち、理解を深めている		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	定期的な勉強会の中で専門講師から学んでおり、必要対象者には、制度を説明出来るように理解を深めている		
9	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご契約時にGHの特色がご理解出来る様に、『重要事項説明書』を使ってご説明し、納得の上で締結されている		
10 (6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の設置や家族へのアンケート調査を実施し、要望の把握に努めている。面会時にはご利用者の近況報告したり、ご家族の要望をお聞きしている。聞き取りした内容はミーティングの場に挙げ、検討し、意見を汲み取る姿勢を大切にしている	家族等には利用者の状況が毎月報告がなされている。また面会時に意見を聞いたり、アンケートを年1回実施するなど、意見や要望を汲み取る機会となされている。本人や家族の要望や意見は、職員と一緒に考え運営に反映できるよう努められている	
11 (7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の定例会で職員の意見を聞き、反映させている。事業所からあがつた意見を会議で話し合いケアの向上につなげている	管理者は職員の意見や要望を聞き、定例会や勉強会にて代表者等にも問合せや話合いが持たれている。職員とは年2回は個人面談の機会を持つと共に、日頃の職場人間関係にも配慮がなされている	
12	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働くよう職場環境・条件の整備に努めている	自己目標を立て、それに向かって働くよう指針を持ち、自己啓発に努めている。又、キャリアパス制度を取り入れることにより、職員が自分自身のモチベーションを上げて仕事ができるように体制を作っている		
13	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	立場や、経験、習熟度に応じて研修計画を本部で立てている。又、職員に法人外で行われる研修情報を連絡事項で知らせ、働きながらも自己啓発の機会を推奨している		
14	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同系列のグループホームと、合同でのレクリエーションや敬老会、クリスマスなどをを行い、交流を図っている。現在感染症の関係もありあまりできていない		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	一人ひとりの状態により違うが、その人らしい生活を送って頂く為に、ご本人から多くの情報を聞きとっている。何を望み、何をしてもらいたいのかに焦点をあてて考えている		
16	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の想いや要望を真摯に受け止めケアに活かしている。苦情や要望は、よりよいケアを行うためにあると常に考えて接している		
17	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初回の相談時からしっかりと状態把握し、ご本人とご家族が必要とされる事をお聞きし、十分な支援ができるよう努めている		
18	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご利用者との関わりにおいて、感謝の気持ちを忘れず一緒に笑顔で楽しむ事を念頭に、日々の生活の支援をさせて頂いている		
19	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	病院受診時には、付き添いをお願いし、医師からの説明を聞いてもらうようにしている。本人の状態把握して頂き、共に支えていくような関係作りに努めている		
20 (8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	携帯電話を持ち込み、いつでも馴染みの方と話ができるよう支援している。電話の充電・取り方・管理など一人では難しくなっているので、支援しながら、引き続き関係が途切れないと努めている	日頃から、かかって来た電話を取次いだり郵便物を投函するなどの支援のほかに、持ち込まれた携帯電話の充電や管理などをして、連絡をスムーズにできるよう配慮がなされている。利用者の話の中から、出かけたい場所や会いたい人の思いを汲み取り支援に繋がるよう努められている	
21	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	他の利用者様と一緒に関わりを持てるように職員が間に入り配慮している。お世話をされる側が負担にならない様、配慮し、仲間同士で心配し合える関係を大切にしている		
22	○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了ということがあっても、本人様や家族様との連絡は断ち切らず、相談に乗り支援している		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	(9) ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの思いや、希望などを毎日の会話の中でよく聴き、希望に添える様に取り組んでいる	小規模事業所の利点を活かした小回りの良さを発揮して、利用者一人ひとりの状況が把握されている。生活を共に過ごすことで、利用者の声や仕草などから感じた思いを、カンファレンスで話し合い情報を共有、実践に繋げられている	
24	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活暦シートを利用し、個々の生活暦や全体像の把握に努め、ケアに繋げている		
25	一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の記録に1日の言動や行動、身体状況などを詳しく記録し状態把握に努めている。又、「いつもと違う」と感じることがあれば細かく記録に残し、職員に情報共有している		
26	(10) ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画作成時は、チームケアの為の担当者会議を開催し、本人・家族・主治医の意見を反映させた個別の介護計画を立てている	計画作成時に職員は本人や家族、主治医の意見を反映した話し合いを行い、個別の計画書の作成がなされている。計画書は本人や家族に同意を頂き実施されている	
27	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	3ヶ月または6ヶ月に1回見直しを行っている。又、状態に変化があれば直ちに会議を開きご家族や医療機関の関係者等と話し合い、新たな計画を作成している		
28	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状態変化時や、本人様の訴えがある時など、密に家族と連絡をとり、よりよいサービス提供の向上に努めている		
29	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議の際に、地域の方々や包括の職員の方、市の職員と意見交換を行ながら、今後の行事に参加して頂くように話し合いを進めている		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30 (11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人やご家族のご理解を頂いたうえで主治医に定期訪問に来て頂いており、夜間、緊急時にも対応してもらい、適切な医療が受けられるように支援している	内科医による定期的な往診が行われており、緊急時には24時間オンコールの体制も整えられている。また希望者には歯科も往診が受けられている。整形等への受診では、家族の付き添いが出来ない場合には職員が送迎や医療機関との連携を図るなどの支援もなされている	
31	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ホーム内に看護師を配置している。又、提携医療機関の看護師とも連携が取れており、毎月の状態報告と状態変化時にはその都度、連絡し健康管理等の相談しながら支援している		
32	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には定期的に面会に行き、不安を和らげるように支援している。主治医、ご家族と相談をしながら、早期退院の為の対応をしている		
33 (12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所できることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ホームにおいて『重度化した場合の対応に関する指針』があり、その中でホームで出来ることと出来ないことを見極めている。主治医と連携し、できる限り入居者様及びご家族の意思を尊重しながら支援に取り組んでいる	利用者や家族等の意見や要望を踏まえ、主治医の意見、事業所の指針に基づき、事業所で出来ることや出来ないことの話合いが行われている。医師や関係者の協力を得て、利用者や家族等の要望を尊重した終末期の看取りケアが実践されている	
34	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けています	対処方法、救命救急法など学習し、定期的訓練を行っている。参加できていない職員には資料にて説明を行っており、次回の訓練参加を促している。急変時のマニュアルを作成しており、定期的に職員間で話し合っている		
35 (13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わずに利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的(年2回)に避難訓練を行っている。日中・夜間の災害を想定した訓練を行っている。また、風水害を想定した訓練も行っている。消防訓練時に、地域の方の参加がある	BCP計画を作成しており、多様な災害に備えて、訓練を実施し見直しも行われている。グループ内の他事業所と連携して、必要な備品や非常食の管理も実施されている。地域の防災計画はこれからだが、運営推進会議で検討の対象として取り上げられており、訓練への参加などもなされている	

自己 外部	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	(14) ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	「プライバシー保護のマニュアル」を作成しており、ミーティング等で定期的に話し合っている。虐待防止委員会、業務向上検討会を通して、尊厳保持の意識付け及び再確認を行なっている	プライバシーについてマニュアル作成して、職員研修にも活用されており、職員の意識の向上や資質の向上に努められている	
37	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者様が何を望み、何をしたいのかを汲み取れるように動作や仕草、表情でキヤッчи自分で決められる様に支援をしている		
38	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な業務の流れはあるが、入居者のペースを第一に考え、落ち着いて生活出来るように支援している		
39	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	2ヶ月に1度、理容組合の方が来らされている。希望者にはカット、顔剃り、毛染めなどを本人の希望に合わせてされている		
40	(15) ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	出来ることは、一緒に行いながら料理をしている。その方に合わせたできる事を見つけ、無理のない範囲で一緒に準備している(野菜の皮むき、盛り付け、味見など)	献立は法人の栄養士が作り、地産地消の食材をふんだんに事業所で手作りしている。利用者は出来ることを手伝い職員と共に調理している。食事は美味しいと好評である。おやつ手作りや行事食にBBQをするなど、食事に変化や楽しみが持てる工夫もなされている	
41	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士が献立を作成している。個別に摂取量や水分量に配慮し、水分摂取が困難な方にはゼリーなど工夫し、確実に水分量の確保ができるように支援している。食欲不振の方には本人が好まれる食事を用意して提供している		
42	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアの声かけをし、義歯洗浄を含めてその人にあった方法で清潔を保っている。口腔内で気になる事があれば協力医機関の歯科に相談し、必要があれば往診に来て頂いている		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43 (16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄支援のいる方は、排泄チェックシートを利用し、排泄パターンを把握し、誘導や排泄介助を行っている。本人様にできるところまではしてもらい、さりげなく見守りし、必要な介助は行うようにしている。羞恥心に配慮している	自立の方もいるが、排せつは自分から訴えてくれる方も多く、プライバシーに配慮した一人ひとりに合った支援が実践されている。紙パンツ使用の利用者は、主に夜間ポータブルトイレを使用しているが、転倒防止対策などの安全対策にも配慮がなされている	
44	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	料理の中に食物繊維を豊富に含んだ食材や乳製品を多めに使ったり、天気の良い日には散歩をして積極的に身体を動かすよう、働きかけている。主治医と相談を行い便秘のお薬なども処方してもらっている		
45 (17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	ご本人の希望やタイミングにあわせて、くつろいで安心して入浴できるように支援している	入浴は週2回となっているが、一人ひとりの時間がゆっくり取って入浴が楽しめるよう配慮がなされている。入浴中の会話もあり、利用者にも好評で入浴を楽しみにされている方も多い。また、希望により臨機応変にシャワー浴や部分浴も実施がなされている	
46	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活動量を増やし、夜間良眠出来るような状態を作っている。眠れないと訴えのある場合は、話をゆっくり傾聴し側に寄り添い、安心していただけるように心がけている		
47	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の目的、用法、用量を把握しており、個々に医師の指示どおり服用できるよう支援している。症状の変化が見られた場合は医師に報告し、対応している。またわかりやすいように一覧表と個々にファイリングしている		
48	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの出番や役割が発揮ができる様、場面作りを考えて支援している。また個々の生活暦や趣味を把握し日常生活の中において、役割や楽しみを持って生活できるように工夫している		
49 (18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日には、庭の散歩をしたり、畑作業(草むしり等)をしたり、外出する機会を設け、利用者様の希望に沿えるよう支援をしている	年間行事予定を作成して、季節ごとに外出されており、スーパーやショッピングセンターへ買い物や外出にも出かけてられている。また、畑を開拓し利用者と一緒に収穫するなど、工夫がなされている	身近にある遊歩道や畑、広い庭園など、素晴らしい環境の強みを活かした日常的な取組みが更に発展することで、利用者や職員の楽しみや潤いが増す生活に繋がることに期待します

自己 外部	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を手持したり使えるように支援している	個々の能力に応じて、精算時、職員が付き添い、サポートしながらご自分で支払いする機会をつくるよう支援している		
51	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	週に数回、家族から本人の携帯電話に連絡がある。取りかたが分からないので、職員が取り次いでいる		
52 (19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を探り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	家庭的な物品を使用している。季節ごとに装飾品を変えたり、利用者が庭で摘んできた花を生けている。食事中は、テレビを消して、静かな曲を流し、ゆっくりと食事ができるようにしている	高い天井から穏やかな自然光が差し込む心地よい空間となっており、鯉のぼりなどの季節の感じられる展示の工夫もなされている。リビングには周囲の自然が見渡せる窓があり、隣はベランダが張り出し、気軽に外で食事やお茶を楽しめる環境である。プランターには花が植えられ、畑では野菜が作られるなど豊かな環境が整えられている	
53	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気のあつた入居者様同士でのんびりと過ごせるよう、テーブル配置に工夫している。相性が悪い入居者様同士にはトラブルに発展しないよう適宜、席替えも行なっている		
54 (20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や生活用品や趣味の小物を持って来て頂いており、昔の事を思い出しながら、くつろげるお部屋作りを行っている	居室の名札は本人の意向に沿い表示か否か決められている。利用者の希望に沿って、私物の搬入を決めている。また身体状況により転倒にも配慮されてた配置がなされている。職員は利用者が居室では自由に過ごせるよう留意されている	
55	○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下や浴室等、手すりをつけており、建物内はバリアフリーである		